

# 白岩 貢&梅本 実 リートリサイタル

## フランツ・シューベルト「冬の旅」全曲



MITSUGU SHIRAWA  
MINORU UMEMOTO  
LIED RECITAL

FRANZ SCHUBERT  
WINTERREISE  
D.911 op.89

おやすみ・風見の旗・凍った涙  
かじかみ・菩提樹・あふれる涙  
川の上で・回顧・鬼火・休息  
春の夢・孤独・郵便馬車  
白髪の前・からす・最後の希望  
村にて・嵐の朝・幻影  
道しるべ・宿屋・勇気・幻の太陽  
ライアー回し



**2015.9.20(日)15:00開演** (開場14:30) **青森公立大学国際交流ハウス**

<青森市営バス「青森公立大学前」下車・バス停向かい> 〒030-0196 青森市合子沢字山崎153-4 TEL:017-764-1555

**チケット:3,000円(一般)・1,500円(学生)** ※当日は各500円増

[チケット取扱]リンクステーションホール青森(青森市文化会館)・NHK文化センター青森教室・カワイ青森ショップ

**2015.10.4(日)14:30 開演** (開場14:00) **東京オペラシティリサイタルホール**

<京王新線「初台駅」東口・徒歩1分> 〒163-1403 東京都新宿区西新宿3-20-2 TEL:03-5353-0788

**チケット:4,000円(一般)・2,000円(学生)** ※当日は各500円増

[チケット取扱]東京オペラシティチケットセンター: 03-5353-9999 (月曜定休)



●公益社団法人日本演奏連盟/山田康子奨励・助成コンサート●

[主催・お問い合わせ]リーダークライスM:017-728-8702 (TEL・FAX)

[共催]学校法人青森山田学園(青森大学・青森山田中学高等学校)

[後援]公益社団法人日本演奏連盟・首都オペラ

インターネットからもチケットが購入できます。<http://www.mshiraiwa.com> 演奏会情報よりお進み下さい。

### ●白岩 貢<バリトン> Mitsugu Shiraiwa, Bariton

玉川大学芸術学科音楽専攻声楽課程、大東音楽アカデミーを経てドイツ・カールスルーエ国立音楽大学大学院修士課程リート科修了。第3回JIRA音楽コンクール第三位、平成13年度友愛ドイツ歌曲コンクール入選。1999年度国際芸術連盟音楽賞受賞。ドイツリートを中心に演奏活動を展開し、2003年よりシューベルト三大歌曲集、シューマン、R.シュトラウス、ヴォルフ、とリサイタルシリーズを青森、東京で開催。オペラでは「魔笛」パハーノ役でデビュー後、さまざまな役柄を好演。熊木豊二、岡村喬生、近藤伸政、白井光子、H.ヘルの各氏に師事。NHK文化センター青森教室では各種講座を開設。現在、青森大学准教授。日本演奏連盟会員。

### ●梅本 実<ピアノ> Minoru Umemoto, Klavier

東京芸術大学付属音楽高等学校、東京芸術大学を経て、同大学院修士課程器楽科ピアノ専攻修了。末永博子、勝谷壽子、伊達純各氏に師事。ドイツ・デットモルト北西音楽大学卒業。さらに引き続きハンブルクにて研鑽を積む。R.F.クレッチマー、C.ハンゼンの各氏に師事。帰国後東京、札幌、福岡各地でリサイタルを開催、またドイツ歌曲の共演ピアニストとして各地で幅広い活動を続けている。文部省在外研修員としてドイツ・カールスルーエ音楽大学において白井光子・H.ヘルのドイツリート解説法クラスで学ぶ。受賞歴多数。北海道教育大学助教を経て、現在、国立音楽大学准教授。日本演奏連盟会員。

★白岩 貢&梅本 実リートリサイタル ～リチャルト・シュトラウスを歌う～ 演奏評一音楽の友2009年9月号より～

本質的にはリチャルト・シュトラウスを歌う白岩貢バリトン・リサイタルだったが、ピアニスト梅本実も独唱と同格に表記されていた。それは2人の演奏家の一つの見識でもあろう。ロマン派リートともなればピアニストの表現の比重はかなりのものになるのは確かだからだ。そしてなるほど、歌唱とピアノの呼吸がいしはかりでなく、ピアノが歌に寄りそいながらも雄弁だった。バリトン白岩貢は、平常は青森大学准教授のポストにある歌い手で、活躍の場は東北が多く、東京では久しぶりのリサイタルだった。ソフトでリリカルな声であり、余裕もある。その声で聴かせた前半は名歌「献呈」や「万葉節」などを含むop.10の歌曲集を中心に、後半も、「ひそやかな誘い」などの名歌に、歌曲集「小人の鏡」6曲が歌われた。この歌曲集が歌われるのが珍しい。詩のケルと作曲家が出版社やその人間を攻撃し擲論した歌曲集で、当事者は当時びっくり返ったらしい。出版社の仕様に2人は余程腹にすえかねた事があったのだろう。白岩、梅本の演奏も大変興にのっていた。(7月12日・東京オペラシティ) <小山 晃>